



## 2017年度 関西独自消費材の放射能検査結果

### ➤ 関西独自材の放射能測定結果

生産者	対象消費材	産地	検査日	検査機関	Cs134	Cs137	セシウム合計
米沢郷牧場	さくらんぼ	山形県(高島町)	5月27日	(株)理研	ND/0.46	ND/0.48	ND/0.94
扇港興産株式会社	ブラウンマッシュルーム	兵庫県	6月22日	生活クラブ	ND	ND	ND/6.0

【検査結果の見方】 単位：Bq/kg 「検出値/検出下限値」で示します

半減期の長いセシウムに絞って検査をしています。セシウム134、セシウム137の合計値で「検出限界値」を記載します。

検出値欄のNDは、検出限界値未満での不検出を表します。

※13年4月から生活クラブ飯能DC検査室に導入した5号機はセシウム137とセシウム134の合計値で算出することにより感度を高めています。そのため、連合会の検査ではそれぞれの数値は表示されません。

### ➤ 生活クラブ連合会の放射能測定結果

#### ➤ 6月は665検体の放射能検査を実施しました。

6月1回～4回(6/5～7/2)の放射能検査は665検体で、そのうち640検体(96.2%)は放射性セシウム不検出でした。検出はどれも関西では取扱いのない消費材で、生椎茸4品目13検体、舞茸3品目10検体、かぶ1品目2検体の8品目・25検体でした。詳細はWebサイトをご覧ください。

単位：Bq/kg

食品区分	基準値	検出下限目標
すくすくカタログ掲載食品 (乳幼児食品含む) 6月開始	不検出	1
飲料水※	5	1
牛乳(原乳)・乳製品①※		
米	10	2.5
鶏卵・鶏肉・豚肉・牛肉		
乳製品②※・青果物・魚介類・加工食品	25	6
生椎茸	50	10

食品区分	基準値
乳幼児食品	50
飲料水	10
牛乳	50
一般食品	100

※飲料水には、ミネラルウォーターや緑茶以外にウーロン茶

紅茶、山草茶、麦茶、抹茶も含まれます。

※乳製品①は、生活クラブの牛乳を原料とする乳製品

乳製品②は、他の牛乳を原料とする乳製品

# 「福島第一原発廃炉作業見学」報告会を開催 各地の組合員が放射能汚染問題への理解を深めました

各地の生活クラブから組合員リーダーが集まり、新しい仲間づくりや消費材の利用を拓げる活動成果・課題の共有をはかる「組織活動推進会議」。生活クラブが取り組んできた放射能汚染対策の意義を確認し、さらにこの問題への理解を深めることも大事な課題の一つです。2017年6月15日、放射能対策への理解を深める機会として、生活クラブ連合会品質管理部の榎田博部長がこの2月に参加した「東京電力福島第一原発廃炉作業見学」の報告会を行ないました。



## ■事故の重大さと困難な廃炉作業

見学当日の足取りや福島第一原発の位置関係の確認、1～4号機の現状の説明などがありました。核燃料取り出し済みの4号機以外、1、2、3号機を合わせると1,573体もの核燃料がいまだに取り残されているうえ、多くが溶け落ちた状態です。格納容器内の放射線量も極度に高く、1号機は最大毎時12シーベルト(30分間いたら致死量に達するほどの線量)、2号機は最大毎時650シーベルト(1分足らずで致死量に達するほどの線量)が推計され、廃炉への道のりは困難極まりない状況であることが報告されました。構内には汚染水を保管する巨大なタンクが並び、汚染水処理に使ったフィルターや作業員の使い捨ての防護服もすべて放射性廃棄物となって増える一方である状況が説明されました。福島第一原発についての詳細な報道が減っている今、実際の見学者から直接に様子を聞くことで、あらためて事故の重大さを感じることができました。

## ■居住制限・帰宅困難区域の映像を上映

原発の構内は見学者による写真撮影が禁止されています。この見学に向かう際、バスが通過した原発周辺の居住制限区域(当時)と帰宅困難区域で、榎田部長が自ら車窓越しに撮影した動画を上映しました。帰宅困難区域を進むと、店や家々の入り口にバリケードが張られ、廃墟となっている様子が映し出されます。また、沿道の田畑や空き地には、除染した土を詰めた大量の袋が一時置きされている様子も写っています。映像音声には、バス内の見学者が持つ空間線量計の「ピーッピーッ」という強い警報音も収録されており、見えない放射能の怖さを感じさせます。居住制限区域や帰宅困難区域のほんの一部を通過した15分間の映像でしたが、原発事故で失われたものの大きさを実感させられました。



## ■活発な質疑で放射能汚染問題への理解を深める

報告と上映のあと、会場では活発な質疑応答が交わされました。各建屋の放射線量の違い、ALPS(アルプス)と呼ばれる放射性物質除去装置の稼働の状況、燃料デブリに関する東電の説明についてなどの質問がありました。更に6月に発生した茨城県大洗町にある原子力機構での作業員被ばく事故についての質問もあり、放射能汚染についての参加組合員の関心の高さがうかがえました。

## ■原発のない社会をめざし現状を共有し運動を続ける

このような困難を人類に強いる発電方法からは脱却して、原発のない社会をめざすことが生活クラブの目標だということを、あらためて全員が確認できた意義深い学習会でした。

生活クラブは、食や環境に関する学習会や情報共有を地道に行なうことで、組合員のひとりひとりが「サステナブル(持続可能)な生き方」の意味を考え、各地で生活クラブの取り組みへの共感をさらに拓げていくことをめざします。

この内容は2017年7月3日掲載

生活クラブ活動情報でも報告しています。 →



「放射能情報なるほどコラム」もご覧ください。 →

